

氏名 松井裕輔  
授与した学位 博士  
専攻分野の名称 医学  
学位授与番号 博甲第 4375 号  
学位授与の日付 平成23年3月25日  
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻  
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Role of Computed Tomography Fluoroscopy-Guided  
Cutting Needle Biopsy of Lung Lesions After  
Transbronchial Examination Resulting in Negative  
Diagnosis  
(気管支鏡下生検にて診断に至らなかった肺病変に対する  
CT透視下肺生検の役割)

論文審査委員 教授 吉野 正 教授 三好新一郎 准教授 木浦 勝行

#### 学位論文内容の要旨

CTガイド下肺生検は、臨床的に悪性が疑われながらも気管支鏡下生検にて確定診断に至らなかった病変に対してしばしば施行される。この研究の目的は気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対する 20G coaxial 生検針を用いた CT 透視下生検の結果を解析し、その有用性を検討することである。方法：当院にて 2000 年 4 月から 2009 年 10 月までに行われた、気管支鏡下生検で診断がつかなかった 351 肺病変（325 症例、341 手技）に対する肺生検の結果を検討した。まず、生検の感度、特異度、陽性適中率、陰性適中率、正診率を算出した。次に、誤診のリスクファクターを解析した。結果：生検結果は真陽性が 262 例、真陰性が 70 例、偽陽性が 0 例、偽陰性が 17 例、診断不能が 2 例であり、感度 93%、特異度 100%、陽性適中率 100%、陰性適中率 80%、正診率 94%という成績であった。有意な誤診のリスクファクターは認められなかった。結論：気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対する CT 透視下生検の診断能は良好である。

#### 論文審査結果の要旨

気管支鏡下生検にて確定診断に至らなかった肺病変に対して CT 透視下生検を施行し、その有用性を検討した研究である。2000 年から 2009 年までに気管支鏡下生検にて診断がつかなかった 351 肺病変（325 症例、341 手技）に対する CT ガイド下肺生検結果を検討した。その結果、真陽性が 262 例、真陰性が 70 例、偽陽性 0 例、偽陰性 17 例、診断不能例 2 例であった。感度 93%、特異度 100%、陽性的中率 100%、陰性的中率 80%、正診率 94%であった。有為な誤診のリスクファクターはなく、気管支鏡下生検で診断できなかった肺病変に対しては CD 透視下生検の診断能は良好で、積極的に施行すべきと考えられた。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、肺癌検査に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。